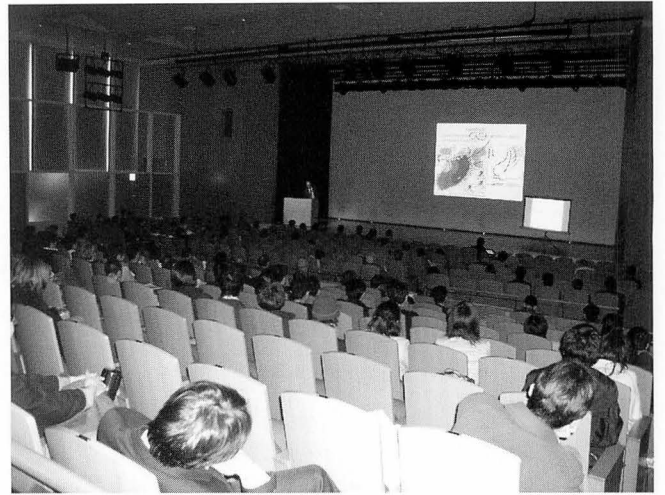


坂山英俊：シンポジウム参加記

日本藻類学会第29回大会の最終日に京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールにて公開シンポジウムが開催された。私は「藻類を通じて環境を考える」というタイトルと内容は、一般の方々に身近な存在とは思われていない(?)藻類を身近に感じてもらえるいい機会だと感じたとともに、個人的にも絶滅危惧種の保全に関する研究に携わっている一個人として非常に魅力的であった。公演での最初のテーマは「藻類と環境政策」というものであった。話題の中心は、人間の生活に欠かすことの出来ない「水(淡水域)」と「大気」に関わる環境問題や新エネルギー源まで幅広いものであった。水環境汚染の指標となる藻類として有毒アオコや車軸藻類などが話題に採り上げられていた。有毒アオコについては、その毒素が環境標準試料化されており、アオコを通して水質の汚染状態を定量的にみることができるようである。また、車軸藻類や地衣類(菌類と藻類の共生体)の種多様性の減少がそれぞれ「水」と「大気」の汚染を明確に反映しているという事例を紹介して頂き非常に興味深かった。ちなみに私の専門は車軸藻類の分類であり、近年のその多様性と個体数の減少ぶりをフィールド調査で身をもって体感している。二番目の公演では、琵琶湖における微細藻類の異常発生が湖沼環境および地域環境に及ぼす影響についての具体的な事例を聞くことができた。琵琶湖では、近年の人間活動の変化に伴う富栄養化と温暖化に代表される地球環境の変化の複合的な影響によって藻類の種組成も変化してきているようである。このように陸水では、高度経済成長期以降の人間活動による水環境破壊によって多くの藻類を含む生物種が失われつつあるようである。

次の公演は、食品として一般の人にもなじみの深い海藻類についてのお話であった。藻類の研究に足を踏み入ると必ず海藻実習に参加する機会があると思うのだが(生のワカメを食べさせられて大変なめに遭ったが)、その時に作成する海藻おしばの美しさは忘れられなく、そこから研究の世界に惹かれていったことをつい思い出してしまった。普通、沿岸には海中で海藻類が繁茂する「藻場」があり、沿岸の生態系を維持する上で重要な役割を担っている。しかし、この藻場も近年、開発・埋め立てなどの人間活動によって破壊されつつあり、そのため周辺の海中環境が悪化し大きな問題となっているようである。公演ではこの藻場の人工的な復元への取り組みについてのお話を聞くことができた。閉鎖性の海域では



シンポジウム会場

河川から流入する懸濁物や植物プランクトンの大量発生による透明度の減少が種多様性低下の大きな要因になっており、湖沼環境におけるものと非常に共通する部分が多いという印象を受けた。やはり、陸においても海においても一度破壊されてしまった環境を復元するのは骨の折れる作業のようである。

最後の公演では、学問的なことよりも、藻類の魅力や美しさや、藻類が我々人間に何を与えてくれ、それに私達がどれほどお世話になっているのか、についての非常にほのぼのとしたお話を聞かせて頂くことができた。藻類の魅力に魅せられた先生方の活動(海藻おしば写真集、海藻学校など)のお話を聞いて、自分にも何か藻類の名を普及させるためにできることはないのかと考えさせられました。公演終了後の公開討論の時間では、一般の参加者の方々から、普段から心に抱いていた(こもっていた)藻類に関する疑問やよく解らないことなどへの質問や、一方では、かなりきびしい意見も飛び出し、関心の高さがうかがえた。このシンポジウムに参加して、私は普段は自分の専門分野にのみめり込んで研究に没頭しがちであるが(教科書・科学誌・学会発表などを通じて知りえる知識は当然身につけておくべきだが)、もっと社会や人間に目を向けて藻類をプレゼンテーションする知識も大切であると痛感しました。最後に、この公開シンポジウムを提供して下さった先生方と関係者の方々に深く感謝いたします。

(国立環境研究所)

大江真司：エクスカージョン参加記

京都で開かれた第29回日本藻類学会のエクスカージョンは滋賀県立琵琶湖博物館にて行なわれた。

学会終了の翌朝、京都大学の吉田南総合館前に集まってみると参加者5名、引率者として今井先生、宮下先生、総勢7人。エクスカージョンに参加したのは初めてであるが、周りの方によると例年に比べ非常にコンパクトだそうだ。9時40分、2台の車に分乗して、京都大学発、10時には滋賀県境に

さしかかった。左手に琵琶湖を眺めつつ10時30分には琵琶湖博物館到着した。当日は平日であったが、春休みということで家族連れの見学者で賑わっている。中を案内してくれるのは学芸員の大家泰介氏。珪藻屋さんだそうだ。折しも、ギャラリー展示は「ミクロの世界を探検しようープランクトンの不思議ー」琵琶湖に生息する動物・植物プランクトンを扱った展示であった。ポスターに書かれたコピーもお洒落で